●表紙イラスト
葉 祥明

表紙のことば

九州生まれの私にとって、雪の日は特別な日でした。年に1・2回降る雪に限りない憧れを抱いたものでした。しかし、南国の悲しさ、折角降った雪も半日か1日で溶けてしまいます。そんな私にとって、一面銀世界の国で、雪に閉ざされて、ひっそり静かに生きる暮しは夢のように思われたものでした。特に、クリスマスイブに降る雪は永遠の憧れ…… 今月号は、そんな訳で、故郷の野山に降る雪の絵です。勿論イメージの世界です……。

●シーン'89 撮影
長野良市
木魂館(小国町)
建物を見ていて、愉快な気分になるのが、小国の建物たちである。それぞれの建物が広い空間の中に存在を主張している。この日の撮影も、タイミングよく落日前の光が木魂館を照らしだした。

編　集　後　記

■
8月号のぴーぷるで紹介した国際医療交流センターが年内にも設立の見通しとなりました。熊本国立病院長蟻田功博士をはじめとした多くの人の地道な努力が実を結びつつあります。「この財団設立が国際社会に対する県民の大きな経験になれば」(蟻田博士)。県民のひとりとして改めてかみしめたい言葉です。

■
文化の日をはさむ5日間、この秋から毎年行われることになった「くまもと文化ウィーク」。芸術の秋を満喫させてくれました。これを支援するかのように、県立美術館に今西コレクションに続き細川コレクションの寄贈。熊本にまた一つ名所が増えました。来年の一般公開が待ち遠しいですね。

"くまもとの風"愛読者募集

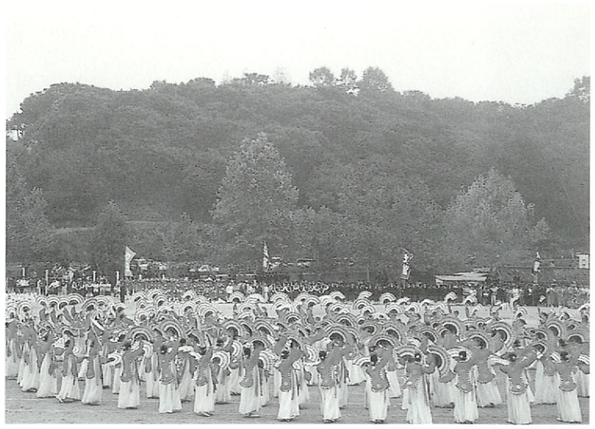
本誌の年間購読を希望される方は、1年分の郵送料1,500円(250円×6回)分の切手を同封のうえ、下記へお申し込み下さい。
(随時受付けます。)
〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎096-382-9780

CONTENTS

1-2 風のコンパス―文化が人を魅きつける―
3-6 特集―くまもとの遊びと文化―
7-8 ぴーぷる～奥田拓男さん～
9-10 ステップ・アップKUMAMOTO ～熊本データスポット～
11-12 ふるさと紀行～河内町～
13-14 シーン'89
15-16 ママさんレポート～第二回県民文化祭in玉名～
17-18 30minutesトーキング～上村富彦さん～
19-20 ウォッチング元気図鑑 ～八代VS球磨～
21-22 HISTORY OF 熊本人～徳冨蘆花～
23-24 INFORMATION
25-26 街角便り 他

WORLD★REPORT
姜信子の韓国通信

취직이 어렵다
チュイ ジギ オ リョプタ


「百済文化祭」での中・高校生による民俗芸能の公演(忠清南道・公州市)

―就職できない―

10月、大田は引越しラッシュで2,000世帯が動いたという。次々と大田市内のあちこちに高級高層マンションが完成したためだ。

市の中心部では華やかなブティックが軒を連ね、人々が楽しげに忙しげに行き交う。大田駅と道庁をつなぐ幹線道路は地下街の大工事中だ。社会が前へ前へと動いている。

忠清南道庁～大田駅通りの工事現場

その同じ市内には、昔ながらの活気に満ちた大きな市場もある。多くの店舗にえて、数え切れないほどの露店が立ち並び、食料品や衣料品やらほとんどのものがふんだんに安く並べられている。そこでは客と店の者の「まけろ、まけない」の駆け引きがある。

韓国の人々は「韓国は日本より10年遅れています」とよく言うが、私が目にしているのは、日本の60年代から現在までが混在している風景なのである。こんな光景もある。夜10時、高校から生徒達がゾロゾロザワザワと出てくる。2・3年生だ。彼らはその時間まで学校で勉強している。それというのも、一流大学へ行き、就職の機会を得るためにだ。

日本よりもさらに激しい韓国の受験戦争。その背景にある「大学は出たけれど…」的な社会・経済状況。これはオリンピックを契機に大きく発展しつつある現在の韓国が乗り越えなければならない問題の一つなのである。ここ数年、韓国では四年制大学卒業者の就業率は、50パーセントあるかないか。忠清南道の優秀な学生が集まる国立忠南大学でも、今年度の就業率は40パーセントだ。

就職できなかった学生達はどうしているかというと、「アルバイトをしながら、来年度の就職試験に備えて家で勉強したり、何らかの学校に通ったり。ただ遊んでいるだけの人もいますよ」と、大田駅観光案内所で日本語ガイドをしている友人は言う。彼女も忠南大卒だが、趣味で学んだ日本語のおかげで、「ラッキーにも就職できました」。

この就職難の中で、大学日本語学科の卒業生は、ずいぶんと有利なのだそうだ。

公州市麻石寺四天王像

姜信子さん
フリーライター。ノンフィクション「ごく普通の在日韓国人」で朝日ジャーナル賞受賞。熊本と韓国の交流推進のため、韓国・忠清南道庁に県職員として初めて派遣された夫とともに今年5月下旬に渡韓。

HOT LINE 街角便り

「孫との交流」
柳原 薫(71才/熊本市)

私は、今年の1月に宇部市にいる孫(小四・小六)と、毎日、1枚のはがきによる文通で交流を約束した。新聞で県下の動き、図書館で熊本の文化と経済面、および「ふるさと紀行」など、子供にわかるように簡単に記載している。私の発信は毎日、孫からの返信は木曜日ときめている。今日まで1日も、かかしたことはない。
娘夫婦が孫2人を連れて墓参にきた。一日目は、熊本動物園に"金絲猴"を見るため案内した。
翌日は、図書館に行った。上の孫は、八代の「河童」について、下の孫は「人吉市永国寺のユーレイの掛け軸」についての本を読んでいた。孫達は、「熊本県にはたくさん面白い伝説があるね」といって、再度の訪問を約束して宇部へ喜んで帰っていった。
孫との文通は、今後も続けていくことを約束した。

「完走！吉無田高原マラソン」
白鷹 民子(51才/清和村)

「オゾンが友達、緑が仲間」、第5回吉無田高原マラソン大会。一緒に選手宣誓した主人は先を走る。ゆっくり楽しく完走するのが目的の私は最後尾から緑の村をスタート。お互いマイペースで走る起伏に富んだこのコース、歩く人が目立ちはじめる頃、少しずつ抜いていけるのがうれしい。ゴールには冷たい水源と主人とビールが待っている。
S(スタート)・G(ゴール)地点が異なるので完走しなければ中食にありつけない。少々の無理はしても無茶はしないぞ。はやる心をおさえながら無事ゴールイン。さて、その前夜祭。キャンプ村では高原の夜を彩る花火大会や女性による御船太鼓など郷土芸能も披露され、大会が一層盛り上がった。グループや家族づれにうってつけのこんなにたのしい付録がついている大会であることをはじめて知った。

「KAZEの便り」
松村 政靖(51才/大阪府枚方市)

大阪の同じ会社に勤める友人が、突然ぼくにKAZE100号、101号を送ってくれた。私が熊本出身であることを知ってのこと。明るく夢のある表紙。なによりも嬉しいのは、熊本の歩みがよく分かることだ。
ページをめくるうちに、過ぎ去った30年の空白をとびこえて改めて熊本県人であった自分を知った。広報誌を通して、東京生まれの妻や大阪育ちの二人の娘たちに、熊本の自慢話ができるのが愉快である。送ってくれた友人は生まれも育ちも大阪。おそらく、九州に単身赴任していた数年前の彼を、火の国の風物が暖かく包んでくれたに違いない。熊本の確かな足取りに、心から声援をおくる。

「パラグアイの大運動会」
丸山 健(25才/パラグアイ)

みなさん、パラグアイって国御存知ですか。私は、ここに青年海外協力隊として、約2年前にやって来ました。体育教師として、小学校と中学校で体育を教えています。言語は、スペイン語(公用語)とガラニー語(現地語)、そして、日本語を使って生活しています。どうして日本語が使えるかと言いますと、私の任地であるラ・パスには日系人移住地があるんです。大半が農業で生計をたてていて、広大な土地に大豆と小麦の二毛作をやっています。ところで、先日私の教えているスペイン語小学校で、大運動会をやりました。まだ、運動会に慣れていない先生と子供たちが、力を合わせて一つのものを作り上げたことに、私は感慨無量の思いがしました。まさに、協力のすばらしさをみんながかみしめたすばらしい一日だったと思います。
残り少ない任期を大切にして、すばらしい2年間にしたいです。
i chau！(さようなら)

お便り募集！

みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を200～400字程度にまとめてお送りください。
(採用された方には"風テレホンカード"をプレゼント)

●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。